

アメリカ・ガットマンコミュニティカレッジにおける eポートフォリオ活用の基本構造

A Basic Structure of Practical Use of E-portfolio at the Stella and Charles Guttman Community College in the U.S.A

吉田 武大* 松岡 宏明**

Takehiro YOSHIDA, Hirotoshi MATSUOKA

抄 録

本稿では、アメリカ・ガットマンコミュニティカレッジのeポートフォリオをめぐる組織的教育の基本構造を明らかにすることを目的としている。目的のために、同カレッジの教員の論文等を引用しながら、ガットマンコミュニティカレッジの概要、eポートフォリオの基本的性質、授業等におけるeポートフォリオの活用、eポートフォリオに関する教員研修の実態を取り上げた。その結果、次の3点が明らかとなった。第1に、「Digication」というプラットフォームが統合的、社会的、そして省察的な教育方法の実践を促進するということである。第2に、入学前と初年次教育段階において、eポートフォリオの活用が学生と教員に徹底して求められているということである。第3に、eポートフォリオに特化した研修の機会としてアセスメントデイズが設定されているということである。

I はじめに

本稿の目的は、アメリカのガットマンコミュニティカレッジ（Guttman Community College, 以下、GCC）を対象として、eポートフォリオをめぐる組織的教育の基本構造を明らかにすることである。

近年、日本の高等教育においては、学修成果の質をいかに客観的に保証するかが政策課題として位置づけられるようになってきている。例えば、2008年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、学修成果を直裁に判定する成績評価をめぐって、「多様な活動の成果を評価する観点から、学生の学修履歴等の記録と自己管理のためのシステムを開発することは、学習成果を重視した評価の条件整備として重要である。」¹との方向性が示され、その具体的な改善方策として、学習ポートフォリオが挙げられている。学習ポートフォリオとは、「学生が、学習過程ならびに各種の学習成果（例えば、学習目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や

* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

** 関西国際大学教育学部

遂行状況、レポート、成績単位取得表など)を長期にわたって収集したもの。」²と定義されるツールである。

また、2012年8月には、「学士課程教育の構築に向けて」で示された方向性を着実に実行するために、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出された。同答申では、学修成果の評価をめぐる、「学長を中心とするチームは、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、学修の成果に係る評価等の基準について、改革サイクルの確立という観点から相互に関連付けた情報発信に努める。特に、成果の評価に当たっては、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト(学修到達度調査)、ルーブリック、学修ポートフォリオ等、どのような具体的な測定手法を用いたかを併せて明確にする」³ことが謳われている。ここにおいても、前述の定義から若干の変更⁴はみられるものの、引き続き学修ポートフォリオの活用が提唱されている。

ただ、2012年8月の答申では、学修ポートフォリオの重要性は指摘されているけれども、具体的な活用の方途については全くといってよいほど言及されていない。今後、多面的な評価手法の1つとして学修ポートフォリオの活用が政策的に推進されていくなれば、先進的な事例における活用の実態を検討することには意義がある。

そこで本稿では、学修ポートフォリオの一タイプであるeポートフォリオを活用している先進的な事例として、アメリカのGCCを取り上げる。GCCではeポートフォリオが教学の柱として位置づけられ、かつ、積極的に活用されていることから注目すべき事例であるといえる。このような顕著な特質を有するにもかかわらず、GCCを取り上げた先行研究は管見の限りみられない。

冒頭の目的を明らかにするために、4つの作業課題を設定する。第1にGCCの概要を取り上げ、第2にeポートフォリオの基本的性質を概観し、第3にeポートフォリオが授業等でどのように活用されているのかを確認し、そして第4にeポートフォリオをめぐる教職員の研修について明らかにする。検討に際しては、GCCのウェブサイトや聞き取り調査結果などを主たる素材とする。

II GCCの概要

1. 学生、専攻、授業期間

GCCは24分校を擁するニューヨーク市立大学(City University of New York)の2年制カレッジとして、2012年8月に開学した新設校である。GCCはStella and Charles Guttman財団から多額の寄付を受けて設立された経緯を有しているため、公立のカレッジであるにもかかわらず、正式名称はStella and Charles Guttman Community Collegeとなっている。

GCCはニューヨーク州マンハッタン島の中心に位置し、キャンパスはグランド・セントラル駅に程近いビル1棟のみとなっている。学生定員は800人であるが、2013年秋時点で在籍学生数は493人、教授陣が40名の小規模校である。

GCCの学生について、2013年秋のデータをもとに確認しておこう。まず、男女比では男性58%、女性42%と、男性がやや多い。次に人種については、ヒスパニック52%、黒人25%、白人16%、ア

ジア太平洋諸島7%, ネイティブインディアン等1%となっており、多様な人種の学生が学んでいる。年齢層では、19歳以下が47%, 19歳が29%, 20~22歳が20%などとなっており、大半がハイスクールを卒業してそのままGCCに入学した学生か、あるいはハイスクール卒業後間もない学生で占められている。そして77%の学生が奨学金などの経済援助を受けて学業に従事している。2年に進級する際のリテンション率については、74.4%となっている。このような数値となっている背景には、学業についていけないという事情もあるが、それ以上に金銭的な事情でアルバイトを優先せざるを得ない問題が存在しているという。そもそもGCCでは、他のカレッジとは異なり、入学1年目はフルタイムで学業に従事することが求められている。このことから、退学せざるを得ない学生が少なからず存在することが首肯できよう。

GCCでは5つの専攻が設置されている。ビジネス管理 (Business Administration), ヒューマンサービス (Human Service), 情報技術 (Information Technology), リベラルアーツ&科学 (Liberal Arts and Sciences), そして都市研究 (Urban Studies) である。学生は、これら5つの専攻のいずれかを選択し、準学士号を取得することとなる。

授業期間について、GCCは他の大学やカレッジではみられない制度を採用している。GCCでは秋・春の2セメスター制を敷いているが、各セメスターは2つのセッションから構成されている。つまり、12週間のセッション (秋1, 春1) と、それに続く6週間のセッション (秋2, 春2) である。このような制度は、6週間のセッションの間に、再履修によって退学することなくコースに踏みとどまるか、あるいは、コースの追加履修によって通常の時期よりも早く卒業するか、いずれかの機会を学生に与えている。こうした制度ゆえにGCCでは、後述のように1年に5, 6回のアセスメントデイズ (Assessment Days) を設けることが可能となっているのである。

2. 建学の理念と教育目標

GCCは、教育、創意に富んだ応答的な学生支援、そして学外機関との連携における優秀性という3者の統合を建学の理念に掲げている。また、教育目標については、学生、とりわけ学修への適応に困難を抱える学生が学業に従事し、準学士号を取得できるように支援することであり、かつ、そうした学生数を増やすこととされている。

こうした建学の理念と教育目標のもと、GCCでは職業生活や4年制高等教育に向けて学生を準備させるために、ジョン・デューイ (John Dewey) の提唱した経験主義的手法などを取り入れながら、多様なディシプリンに基づいた統合的な教育プログラムを提供している。

3. 学修成果とルーブリック

ここでは、GCCの学修成果とルーブリックについて確認していこう。

まず、学修成果についてである。GCCでは、教室内の学びと教室外の経験や職業生活との関連づけを意図した教育プログラムを設けている。こうした教育プログラムを通じて身につけることが期待されている学修成果は、Guttman Learning Outcomes (以下、GLO) と呼ばれている。GLOは、ルミナ財団 (Lumina Foundation) の学位資格プロフィールと、全米大学・カレッジ協会 (Association of American Colleges & Universities) によるLiberal Education and America's

Promiseというプロジェクトの成果に基づいて作成されている。GLOは、カレッジ、職業生活、市民生活、そして社会での責務といった全ての観点に関する知識や技能のセットとして定義される、普通教育（general education）の包括的な枠組みであり、GCCの建学の理念と教育目標を反映したものとなっている。なお、GLOに関する組織レベルの学修成果はコースレベルで示され、それらはeポートフォリオにアップロードされた学生のコース課題を集積した上で評価されることになっている。

GLOは5つの学修成果から構成されており、具体的には次のようになっている。

(1) 広範で、統合的な知識：一般教育（Broad, Integrative Knowledge: General Education）

この学修成果は、学生が広範で一般的な学修上の分野からの学びを統合することができ、また、異なる学問上のディシプリンと多様な観点の関連について理解していることを示している。

(2) 応用学修（Applied Learning）

この学修成果は、職業上の場面も含め、カレッジそして教室外の環境において学生がどのように問題を表明するかによって示されながら、学生が学んだことをもとに何ができるのかを記述したものである。それらは、教室内での学修の適用、教室外活動への参加、そして向上させたスキルをも含む。

(3) 専門化された知識：主専攻（Specialized Knowledge: The Majors）

各専攻の目標は学生に専門化された知識を提供することである。この学修成果を達成する学生は、主専攻に関連する基本概念、知識、そして研究手法を理解している。このことは、職業生活を開始したり、4年制高等教育での学業を継続する一助となる。

(4) 生涯学習に関する知的スキル（Intellectual Skills for Life-Long Learning）

ここには、コミュニケーション、量的・批判的思考能力が含まれている。これらは個人的、学術的、そして専門的な文脈における生活を通じた学修の際に必要とされる。知識と情報を評価し、理解し、そして活用することによって、学生は興味・関心を持って研究していくことが可能となる。

(5) 市民としての学修、従事および社会的責務（Civic Learning, Engagement & Social Responsibility）

ここでは、地域、国内、グローバルという各レベルにおいて、学生が多様な社会的課題、環境的課題、そして経済的課題に対応する際の知識や技能を記述している。

次に、GLOがいかなるルーブリックに基づいて評価されているのかをみていく。GCCでは、GLOに対応して5つのルーブリックが開発されている。GLOは全米大学・カレッジ協会が開発したバリュールーブリック（Valid Assessment of Learning in Undergraduate Education Rubric : VALUE Rubric）の影響を受けている。表1は、GLOの5つのルーブリックのうち、応用学修のルーブリックである。このルーブリックでは、評価のレベルが4段階になっている。また、評価の観点は2つに

設定されている。1点目は、現実世界の問題に対する創造的な解決法を提供するために、研究と分析的スキルを活用しながら知識を構築していくことである。2点目は、問題を解決するために他者と効果的に協力し、プロジェクトを遂行することである。

Applied Learning				
<i>The outcomes in this category describe what students can do with what they know, demonstrated by how they address problems in school and in non-classroom settings, including at work. They include applications of learning from the classroom and of skills developed from participation in activities outside the classroom.</i>				
Criteria or Domain	Capstone 4	Milestones 3	Milestones 2	Benchmark 1
a. Build on content knowledge using research and analytical skills to provide creative solutions to real-world problems.	Proposes creative solutions to specific real-world problems. Solutions are supported by substantial research and presented in clear and compelling ways to stakeholders.	Integrates research methods to analyze and assess specific solutions to real-world problems	Explains real-world problems and identifies a range of possible solutions and reasons for pursuing some solutions over others	Describes real-world problems in general and summarizes existing solutions
b. Collaborates effectively with others to solve problems and complete projects.	Employs self and peer evaluation strategies to assess and improve, as necessary, the quality of the project.	Works collaboratively with and supports other group members to complete projects.	Makes identifiable and measurable contributions to the project, given each member's specific responsibilities in completing the project according to established deadlines.	Participates in group projects when assigned as part of class or co-curricular activities.

表1 応用学修のルーブリック

III eポートフォリオの基本的性質

1. 統合的・社会的・省察的な教育方法の支援

GCCでは、eポートフォリオが開学当初から、学生の成長や達成度を総体的かつ純正に評価することを可能にするツールとして期待され、評価システムの中心的存在として位置づけられている。また、学修を行っていく上での主要なツールとして積極的に活用されていることから、GCCにおいて重要な位置を占めていることは明らかである。そこでまずは、eポートフォリオの基本的性質について取り上げていく。

GCCでは開学前の2011年秋に、eポートフォリオのシステムとして、その堅牢性から「Digication」というプラットフォームを採用することが決定された。「Digication」は統合的な教育方法、社会的な教育方法、そして省察的な教育方法の活用を支援するものとされている。以下では、この3つの教育方法とeポートフォリオの関係を確認しよう。

第1は、統合的な教育方法についてである。後述のサマーブリッジプログラム (summer bridge

program) では、ニューヨーク市内のフィールド調査が行われるが、調査で得られた画像や動画などのマルチメディアをeポートフォリオに保存できるという性能は、学生の経験的な学修を把握し、教室内での学びに関連づけることを可能にしている。

第2に、社会的な教育方法をめぐっては、教員のeポートフォリオへのコメント記入を挙げることができる。教員はeポートフォリオに投稿されたエッセイやレポートなどを日常的にチェックし、コメントを記入している。また、学生に対して、記入されたコメントをお互いに確認したり、論評し合うことも奨励している。こうした教員からのフィードバックや学生同士によるフィードバックは、学生によるeポートフォリオの活用をさらに活性化させるものとなっている。このように「Digication」は、社会的な教育方法としてのコメント記入を促進するという性質を有しているのである。

第3に省察的な教育方法である。この教育方法は学修において最も中心的なものである。サマーブリッジプログラムや秋1のセッション、春1のセッションの終わりに、学生はGLOのループブックをもとに、eポートフォリオでふりかえりを行っている。また、教員は、学生の学びと成長に関するふりかえりをカリキュラムのなかに組み込んでいる。こうして、eポートフォリオは学修成果を可視化させていくのである。換言すれば、学生と教員は、学修が進展するなかで、成長の度合いを把握することが可能になるのである。

2. その他

以上の基本的性質を有するeポートフォリオを、教職員のみならず、ピアメンターも学生支援のために活用している。ピアメンターは、サマーブリッジプログラムが始まる前に、指定された文献に対する新入生の意見を新入生同士で共有することを可能にする、いわば双方向的なeポートフォリオを作成している。また、授業での学修支援を目的としたeポートフォリオも作成している。

GCCでは、eポートフォリオをめぐる学生支援において明確な分業体制が敷かれている。具体的には、eポートフォリオの技術的な支援を行うスタッフ、レポートや記事をどのように作成していけばよいかについて支援を行う教育スタッフ、そして、授業でeポートフォリオを通じて指導する教員といった体制である。

この他、教室には、授業でeポートフォリオをいつでも活用できるようノートパソコンが20数台ほど収納されているなど、設備面での配慮がなされている。なお、eポートフォリオの今後については、ヴァーチャルな学修コミュニティのなかでeポートフォリオを活用していく予定とのことである。

IV 授業等でのeポートフォリオの活用

1. サマーブリッジプログラム

GCCの全新入生は、ハイスクールからカレッジへの移行措置として、入学前に、3週間にわたるサマーブリッジプログラムを受講することが求められる。具体的な内容は、読み・書き・算、ミニ・プロジェクト、ニューヨーク市内のフィールド調査、eポートフォリオの使い方などである。

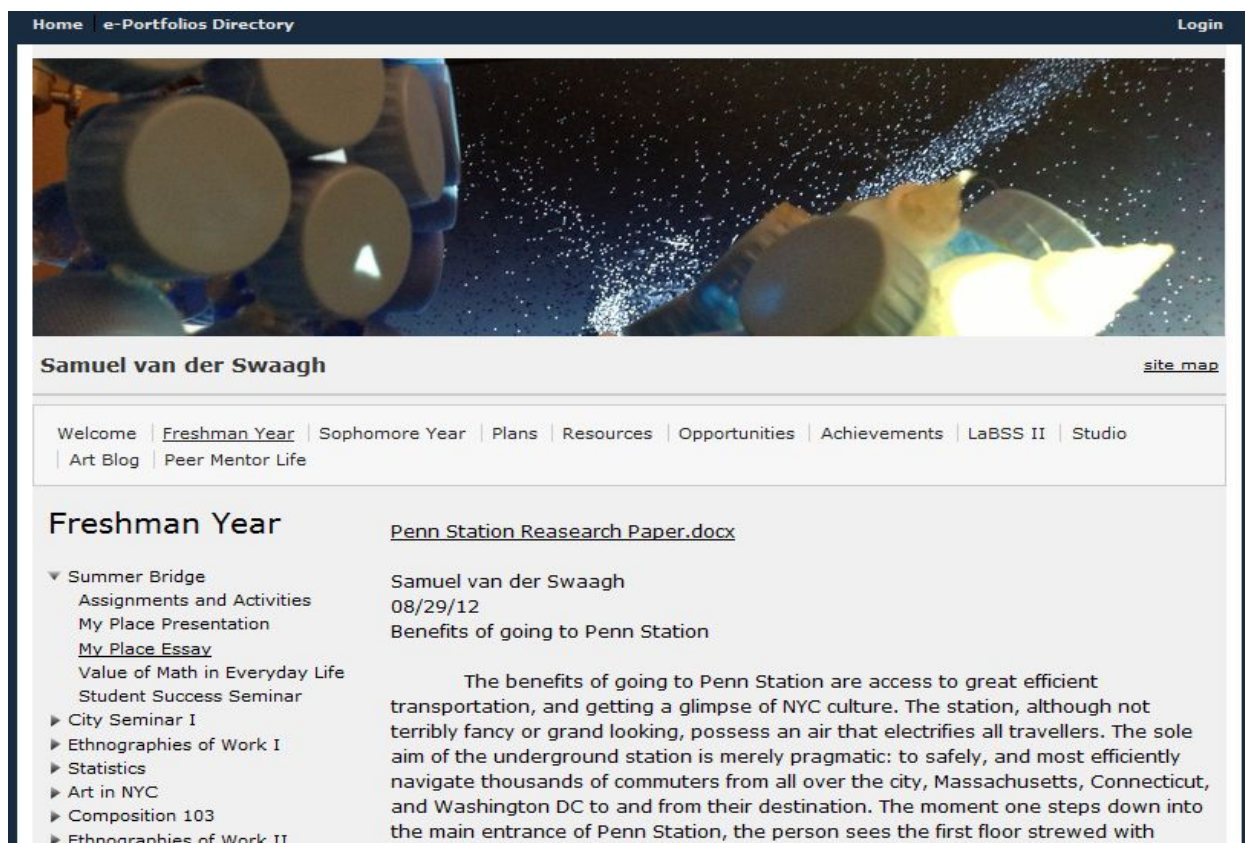
まず、学生はサマーブリッジプログラムにおいてeポートフォリオとどのように関わっているのか

をみていこう。新入生は初日か2日目にeポートフォリオの使い方を学んだ後、数人程度のグループに分かれて、ニューヨーク市内で行ったことがない地区の様子はどのようになっているのかといった単純なテーマのもと、現地でフィールド調査を行う。そして調査結果をeポートフォリオにアップロードしている。以下の図1が、調査結果に関するeポートフォリオ画面である。


サマーブリッジプログラムの最終プロジェクトを終えるに当たって、担当教員は、新入生のグループそれぞれに、達成した学びと直面した課題に関する300ワードのエッセイを書くように求めている。そしてプログラム終了の2日前には、エッセイについてのふりかえりが行われ、新入生はふりかえりの結果をeポートフォリオにアップロードする。

これらのプログラムを通じて新入生はeポートフォリオの基本的な活用を学んでいくのである。なお、秋 Semester の2半期目に、このふりかえりに関する記事を再確認し、学修者としての成長に関するふりかえりが行われることになっている。

次に、教員がサマーブリッジプログラムでeポートフォリオをどのように活用しているのかを確認していく。同プログラムの担当教員は新入生のエッセイやふりかえりに関する記事を読み、コメントを記入している。また担当していない教員も、秋1のセッションが始まる前にこれらの記事を確認して、学生を理解する一助としている。こうして、eポートフォリオは教員に対して、学生との双方向的なコミュニケーションを促進し、学業に対する学生の意欲や態度を把握する機会を提供しているのである。



Home e-Portfolios Directory Login



Samuel van der Swaagh [site map](#)

Welcome | [Freshman Year](#) | [Sophomore Year](#) | [Plans](#) | [Resources](#) | [Opportunities](#) | [Achievements](#) | [LaBSS II](#) | [Studio](#)
| [Art Blog](#) | [Peer Mentor Life](#)

Freshman Year

- ▼ Summer Bridge
 - Assignments and Activities
 - My Place Presentation
 - [My Place Essay](#)
 - Value of Math in Everyday Life
 - Student Success Seminar
- ▶ City Seminar I
- ▶ Ethnographies of Work I
- ▶ Statistics
- ▶ Art in NYC
- ▶ Composition 103
- ▶ Ethnographies of Work II

[Penn Station Reasearch Paper.docx](#)

Samuel van der Swaagh
08/29/12
Benefits of going to Penn Station

The benefits of going to Penn Station are access to great efficient transportation, and getting a glimpse of NYC culture. The station, although not terribly fancy or grand looking, possess an air that electrifies all travellers. The sole aim of the underground station is merely pragmatic: to safely, and most efficiently navigate thousands of commuters from all over the city, Massachusetts, Connecticut, and Washington DC to and from their destination. The moment one steps down into the main entrance of Penn Station, the person sees the first floor strewed with

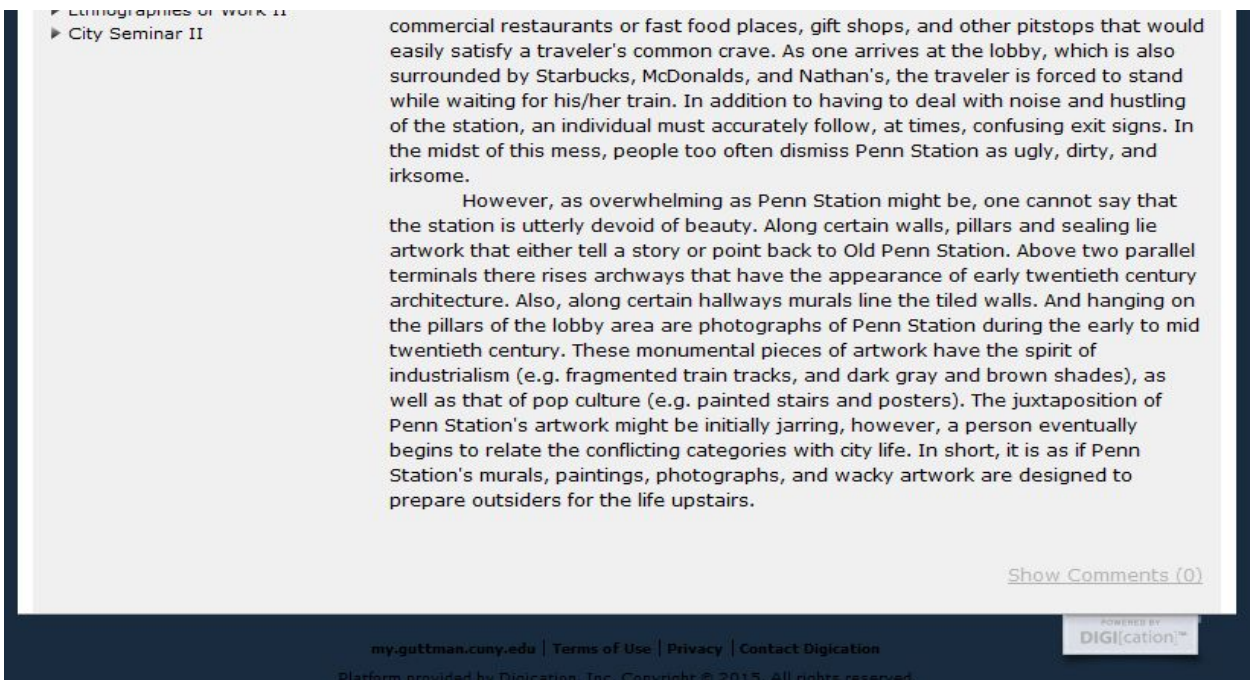


図1 eポートフォリオ画面

2. 初年次教育

GCCでは初年次教育においても、サマーブリッジプログラムと同様にふりかえりが重視されている。そもそも、ふりかえりの目的は、学修者としての自身を分析・検討させることとされている。そのため、学生は教室内の学びとニューヨーク市内でのフィールド調査といった、教室内外の学修や経験に関連づける作業を行っている。こうして学生は、成長した部分、強み、そして課題を関連づけて、学修面でどのように成長したのかをふりかえり、次の学修プロセスに活かしているのである。

このようなふりかえりを行うための中心的なツールがeポートフォリオである。初年次教育では、全ての授業でeポートフォリオを活用することが求められている。例えば、筆者等が見学した「環境倫理学 (environmental ethics)」という授業では、学生は、「動物を檻に入れておくことは問題であるかどうか」というテーマについて、最初にYesかNoか、及び、その簡単な理由をグループごとに模造紙に書き込んでいった。次いで、その理由を深く考察するために、あらかじめウェブ上にアップロードされた関連の研究論文を検索して読み込みながら、それぞれの主張の根拠を具体的かつ論理的に考え、最終的には個人ベースで記事を作成し、eポートフォリオにアップロードしていた。

eポートフォリオにアップロードされた学生のエッセイやレポートは、eポートフォリオに実装されたGLOのルーブリックに基づいて評価される。また、教員にはこうしたエッセイやレポートに対してコメントを逐次記入することが求められている。例えば、筆者等が見学した先の授業では、学生が研究論文を検索して読んでいる間に、教員がeポートフォリオにアップロードされた記事に対してコメントを記入していた。このような授業環境は日本とは大きく異なっているものの、コメント

を記入する負担は相当なものとのことであった。

3. 2年生を対象とした授業

2年生になると、エッセイやレポートは、学修成果がどれだけ統合されたものとなっているのか、つまり、GCCが求める5つの学修成果がどれだけ達成されているかという観点から総合的に評価される。また教員は、就職活動あるいは4年制高等教育機関への編入の際に活用されるショーケースとしてのeポートフォリオを学生が作成するのを支援している。

V eポートフォリオの活用に関する教職員の研修

GCCでは、教学の柱としてeポートフォリオが位置づけられていることから、eポートフォリオに関する研修が数多く実施されている。そのなかで主たる研修として位置づけられているのが前述のアセスメントデイズと呼ばれるプログラムである。アセスメントデイズは2日間に渡って実施され、1年に5、6回ほど開催されている。アセスメントデイズには、専任教員はもちろん、初年次生のアドバイザー（Student Success Advocates）と2年生のアドバイザー（Career Strategists）も出席している。また、非常勤教員も大学院レベルのコーディネーター（graduate coordinators）として参加することが奨励されている。以下ではアセスメントデイズの特色を3点取り上げていくこととする。

第1の特色は、教育チーム（Instructional Team）が結成されているということである。教育チームは、教員、初年次生のアドバイザー、大学院レベルのコーディネーターから構成され、アセスメントデイズの活動単位となっている。教育チームは同じ席に座り、eポートフォリオを通じた学生の学修成果を議論しながら、個々の学生の成長の度合いを検討しているのである。

第2の特色は、教職員が評価の作業に従事するという点である。具体的には、教育チームがeポートフォリオにアップロードされた学生の成果物を検討している。この活動は、教職員による評価活動を改善する上で問題点や課題を明らかにするための典型的な例である。2013年の秋1のセッションでは、サマーブリッジプログラムに関するアセスメントデイズと、コミュニティデイに関するアセスメントデイズの計2回が開催された。このうち、サマーブリッジプログラムに関するアセスメントデイズでは、新入生がeポートフォリオ上で行ったふりかえりをランダムに抽出して、それを教職員が評価する活動が行われている。資料1は、この時のアセスメントデイズの進行表である。

秋1セッション終了時におけるアセスメントデイズ サマーブリッジプログラムのふりかえりの活動

ステップ1 導入（10～15分）

2013年のサマーブリッジプログラムの学修成果

1. ニューヨーク市内近隣を調査するために、基本的な批判的思考力と研究を適用する。
2. eポートフォリオを使いながら、サマーブリッジプログラムを通じて達成された学修成果を

示してふりかえる。

3. グラフに示されたデータを説明し、解釈する。
4. 内容、構造そして形式への気づきを含めながら、テキストを読んで理解する。
5. 多様な方法で研究上の知見を発展させ、提示する。
6. カレッジの学生となるために、強みと成長した領域を特定し、リストアップする。

ステップ2 全体的なグループ作業 (10分)

サマーブリッジプログラムの学修成果を踏まえて、学生のふりかえりを読み、学修成果のエビデンスについて議論する。

ステップ3 個々の作業 (10分)

ステップ2のエビデンスを読み、2, 3の追加的な学生の応答を確認する。その際、学修成果の1つに直接関連するか、あるいは印象的だと感じたようなふりかえりの部分に焦点を当てる。

ステップ4 個々の作業に対するグループでの検討 (15～20分)

グループワークの一環として、学生の成果物のサンプルを検討する。そして、そのエビデンスをグループ内のメンバーと共有する。

ステップ5 ペアリングと共有 (60分)

個人ベースで学生のふりかえりを読み、そこで気づいたことをペアで議論していく。

ステップ6 全体討議 (30～40分)

これまでのステップで出された考えや知見を共有する。

この活動から我々は何を学んだのか？サマーブリッジプログラムに関して学生に共感した点はあるか？成功した点があったのか？次年度のプログラムに関する計画を立てて行くに当たって、サマーブリッジ委員会に対する提案は何かあるか？

午後のセッションで、1, 2名の参加者がグループワークの結果を報告し、上記の質問に応えることとする。

資料1 アセスメントデイズの進行表

資料1に示したようなアセスメントデイズでの議論はeポートフォリオにアップロードされ、GCCの誰もがアクセスできるようになっている。また、サマーブリッジ委員会は、アセスメントデイズでの議論や知見を活用しながら次年度のプログラムを立案していくことになっている。

第3の特色は、eポートフォリオに関する教育方法や技術の向上に焦点を当てたワークショップを実施しているということである。例えば、経験豊富な教員に対する「eポートフォリオという教育方

法と最上の実践」や、新任の教職員に対する「eポートフォリオ101」といったプログラムが実施されている。

以上、アセスメントデイズにおける3つの特色を取り上げてきたが、このような特色を有する研修と学修成果の評価を関連づけることによって、GCCでは、学修成果の評価とその改善に関する文化を創造していくことが現在もお模索されている。

VI まとめと課題

これまで、GCCにおいてeポートフォリオをめぐる組織的教育の基本構造がどのようなものであるかを明らかにしてきた。以下、その基本構造を3点に整理しておく。

第1に、「Digication」というプラットフォームが統合的、社会的、そして省察的な教育方法の実践を促進するということである。このことが、教室内外の学修や経験を関連づける統合的な教育方法、コメント記入やフィードバックという社会的な教育方法、そしてふりかえりという省察的な教育方法の実践を可能としている。

第2に、入学前と初年次教育段階において、eポートフォリオの活用が学生と教員に徹底して求められているということである。入学前に開催されるサマーブリッジプログラムで、学生はeポートフォリオの基本的な活用を学び、教員はコメント記入を行っていた。また、初年次教育では全ての授業科目でeポートフォリオの活用が求められていた。学生は成果物のアップロードやふりかえりを行う一方で、教員はコメントを逐次記入し、フィードバックを実施していた。このような徹底した活用こそが、eポートフォリオを教学の中心的存在たらしめているのである。

第3に、eポートフォリオに特化した研修としてアセスメントデイズが実施されているということである。アセスメントデイズは1年に5、6回ほど開催されている。また、アセスメントデイズでは、教育チームの結成、教職員の評価作業への従事、そして教育方法や技術の向上に関するワークショップの実施という3点が特色として挙げられた。

今後の研究課題は次の通りである。

まず、学修成果の点で学生にどのような成長がみられたのかを分析することである。今回は、GCCのeポートフォリオをめぐる組織的教育の基本構造という、いわば制度的な側面を明らかにすることを目的としていた。そのため、そうした基本構造が学生にどのような教育効果をもたらしたのかを明らかにするには至らなかった。このような課題を分析することで、eポートフォリオをめぐるGCCの取り組みの意義がより明瞭になると考える。

次に、他の先進的な事例を検討することである。本稿ではGCCのみを対象とした報告となった。eポートフォリオをめぐる組織的教育の一般構造を明らかにしていくためにも、他の先進的な事例を検討することが必要となる。

【注】

- 1 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』2008年、26頁。
- 2 同上、61頁。
- 3 中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年、20頁。
- 4 新たな定義では、「学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。」と、「学習」から「学修」へ表記が改められた他、「記録したもの」が追記されている。（同上、38頁。）

【主要参考資料】

ePortfolio at Guttman Community College, CUNYホームページ：

<http://gcc.mcnrc.org/practices-2/>（2015年3月10日アクセス）

Guttman Community Collegeホームページ：<http://guttman.cuny.edu/index.html>（2015年3月10日アクセス）

Laura Gambino, Putting E-portfolios at the center of our learning, in *Peer Review*, vol.16, no.1, 2014.

Laura Gambino 教授への聞き取り調査（2015年2月2、3日実施）

Abstract

The purpose of this investigation is to study basic structure of organizational education related to the e-portfolio at the Guttman Community College (GCC) in the U.S.A. In this research, the authors examine the outline of GCC, essential characteristic of the e-portfolio, the practical use of the e-portfolio at classes, and the actual situation about the professional development of the e-portfolio, referring to the papers of the faculty at GCC and GCC website.

The obtained results are as follows;

1. The platform of Digication supports the integrative, social, and reflective pedagogy.
2. Both the students and the faculties are required to use the e-portfolio at the level of pre-entrance and the first year experience.
3. The Assessment Days are arranged as the professional development related to the e-portfolio.